

# 生出塚埴輪窯跡(鴻巣市)

おいねづか

ここは鴻巣市文化センター



その中の「クリアこうのす」歴史民俗資料コーナーを見学してみる



歴史民俗資料  
コーナー

生田塚埴輪窯跡は、  
東国最大級の  
埴輪製作跡だぞ！



ここの出土品 70 点が、  
国の重要文化財に  
指定されたのよ！



生出塚埴輪窯跡から出土した埴輪が一堂に並べられている/国の重要文化財となっている



## 埴輪のさと鴻巣

鴻巣市には原馬室（白雲荘の西側）に馬室埴輪窯、東・天神地区（旧市民会館周辺）に生出塚埴輪窯の2箇所の埴輪製作跡があります。西の馬室窯では、埴輪窯10基と工人用住居1軒、東の生出塚窯では埴輪窯40基、工房2基、粘土採掘場1箇所、工人用住居9軒が見つかっています。

このうち生出塚窯は、埴輪生産に関わる各施設が確認されており、東国最大級の埴輪生産跡として知られています。また、本窯では5世紀末から6世紀末の約100年間にわたって埴輪生産を行っていたことが調査で明らかになっています。これが、鴻巣は「埴輪のさと」と言われる由縁です。

ここで生産された埴輪は造形的にも優れており、生出塚工人集団の窯業技術の高さを物語っています。また、生出塚窯の製品は、埼玉古墳群や鴻巣周辺の古墳群のほか、東は千葉県市原市から西は神奈川県川崎市までの東京湾沿岸地域の古墳にまで広く供給されていたことが明らかになっています。このように埴輪を遠くまで運ぶためには、元荒川の水運が重要な役割を果たしていたと思われる。

きっと、古墳時代の鴻巣には、有名ブランドの埴輪工場があることが、周辺地域に知れわたっていたのでしょう。



埴輪生産の様子(馬室埴輪窯)



生出塚窯産埴輪が供給された古墳



大塚古墳出土の土器

古墳時代

古墳のつくられた時代

下り古墳時代は、西に大規模化した古墳時代から  
 古墳時代中期に入ります。この間は、古墳時代の中期から後期の  
 まで、古墳の規模が大きくなり、古墳の構造も複雑化して  
 きます。古墳時代の中期から後期の間に、古墳の規模が大きくなり、  
 古墳の構造も複雑化してきます。古墳時代の中期から後期の間に、  
 古墳の規模が大きくなり、古墳の構造も複雑化してきます。



古墳時代の古墳の構造

古墳時代の中期から後期の間に、古墳の規模が大きくなり、古墳の構造も複雑化してきます。古墳時代の中期から後期の間に、古墳の規模が大きくなり、古墳の構造も複雑化してきます。古墳時代の中期から後期の間に、古墳の規模が大きくなり、古墳の構造も複雑化してきます。

5

奈良時代 律令制度下の鴻巣

天智の改革（天智十一年）以後、唐の律令制度を導入しての律  
 令制度が導入され、天智十一年に唐の律令制度が導入された。天智十一年に唐の律令制度が導入された。天智十一年に唐の律令制度が導入された。



鴻巣の唐風建築（鴻巣市立歴史民俗資料館）

天智十一年、唐の律令制度を導入しての律令制度が導入された。天智十一年に唐の律令制度が導入された。天智十一年に唐の律令制度が導入された。



古墳時代の古墳の構造



鴻巣の唐風建築（鴻巣市立歴史民俗資料館）

6

鴻巣市文化センターの南側のせせらぎ公園







さて、ここは鴻巣市役所第二庁舎/この辺り一帯が生田塚輪窯跡のエリアとされる



庁舎の南東側に隣接する東裏一号公園



説明板が立っている



# おいねづかいせき 生出塚遺跡

生出塚遺跡は、東日本最大規模の埴輪窯跡群である。元荒川の沖積低地に向かって北東方向になだらかに傾斜する台地上（鴻巣市役所第二庁舎南側一帯）に遺跡は広がっている。もともと標高が高い地点は、海拔約一九メートルである。周辺は住宅地となっていて、かつての景観を偲ぶことはできない。

生出塚遺跡は数度の発掘調査が行われ、古墳時代後期の埴輪窯跡・工房跡、住居跡・古墳跡などが見つかっている。なかでも埴輪を焼いた窯は、六世紀初め頃から終わり頃までの約百年間操業されたことが明らかになっている。

この場所で発見された埴輪窯跡は、全長約九メートル、焼成部の長さ約四メートル、幅約二メートルの登り窯形式で、窯の吹き口と灰原は地表面から約二・五メートル掘り込まれていた。窯は、深い灰原を中心にして八ツ手状に広がるように造られていた。これは数基分の窯の灰原を一ヶ所にまとめて賄うという効率化をはかったためである。

窯の操業回数は、一基あたり五回前後と考えられ、一回の操業で口径約三〇センチメートルの中型の円筒埴輪であれば四五本程を焼いていたようだ。

この窯跡から出土した埴輪は、円筒形・器財系（武器、武具）・家形・人物形・動物型（馬、鹿、水鳥）などである。出土の状況や埴輪の種類が豊富なおうえに造形的にも優れていることから、平成十七年六月九日に「埼玉県生出塚埴輪窯跡出土品」として国の重要文化財に指定された。特に一体の武人埴輪と三体の正装男子埴輪は、造形的に優れているだけでなく大型



八つ手状に延びる窯跡



生出塚埴輪出土状況

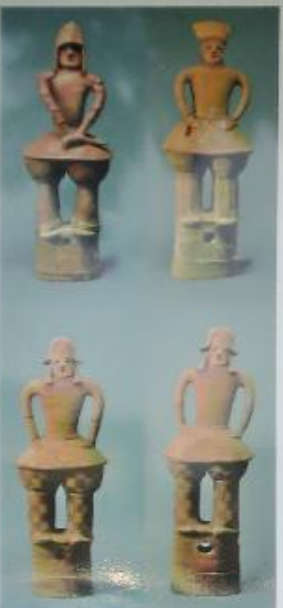
で、それぞれ高さが約一三〇センチメートルある。このような大型の埴輪を製作するには高い技術が必要である。このことは、大型の埴輪作りができる技術を持つ専門の工人集団がこの生出塚遺跡にいたことを物語っている。

なお、これらの埴輪は、鴻巣市文化センター（クレアこうのす）にある歴史民俗資料コーナーに収蔵されており、随時見学可能である。

生出塚遺跡で作られた埴輪は、隣接する生出塚古墳群をはじめとして、行田市埼玉古墳群や久喜市（旧葛蒲町）東浦古墳などへ運ばれていたことが判明している。さらに千葉県原市の古墳（山倉一号墳）からは、この

生出塚窯跡で作られた可能性が高い埴輪が出土している。

遠方に運ばれた埴輪は、元荒川をはじめとする水路を利用して船で運ばれていたようである。当時、大量のものを運ぶには、船がもっとも効率的だった。この時代には、運搬手段として河川の水運が各地で広く利用されていたと考えられる。



埴輪出土の人物窯跡

平成二十四年二月

文化財を大切にしましょう

鴻巣市教育委員会

公園と第二庁舎を東側から見る



南側から見る



公園を南西側から見る



公園を南東側から見る/右手が第二庁舎





ところで、この地域には生出塚古墳群が展開していたという/正面は鴻巣保健所でこの辺りに古墳が確認されているらしい



南東側から見る



北側から見る



正面前方は財務省関東財務局鴻巣住宅/この辺りも生出塚古墳群の古墳が確認されているらしい



鴻巣住宅を南側から見る



北側から見る/一番右手の低い建物は鴻巣署



そして正面の建物は埼玉県警察運転免許センター/この辺りも生出塚古墳群の古墳が確認されているらしい



参考ホームページ

<http://kitora888.art-studio.cc/Sakitama kohun2/HTML/page028.html>

<http://news-act.com/archives/34686671.html>

埼玉県警察運転免許センター



←鴻巣市文化センター

←鴻巣市役所

鴻巣保健所 →





←鴻巣市役所

←鴻巣市役所  
第二庁舎

鴻巣保健所 →

財務省関東  
財務局鴻巣住宅 →

鴻巣署 →